白銀南小

「わかった！できた！役立った！」が実感できる授業づくり

～問題解決的な学習の授業実践を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　髙　山　　一　雄

１　研究主題について

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題に対してまじめに取り組む。しかし、自分の力を高めようと意欲をもって自ら進んで学習に取り組むという点では、消極的な態度が見られる。このような実態から、本校では、教育目標として「豊かな心をもち、主体的に活動する子」、努力目標として「進んで学習する子」を掲げ、自ら課題を見つけ、問題解決に向けて意欲的に取り組む児童の育成を目指している。

校内研究では、令和元年度から令和３年度にかけては、児童がより主体的に学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を伸ばしていくことを目標に、国語科における「問題解決的な学習」を軸として、研究を進めてきた。令和４年度には、研究主題を一新し、「問いをもたせる学習課題の設定」と「話合い活動の充実」の２つの取組を継続的に検証しつつ、「学習を振り返り、学ぶ意欲を高める」という取組についての研究も行った。その結果、授業において児童が問いをもって学び、自分の意見を伝えようとする意欲の向上をはじめ、様々な成果が得られた。しかし、有効な話合いや振り返りを児童にさせるための手立てが十分ではないことや、能力の個人差からくる学習意欲の差の扱いなど、課題も多く見られた。そのため、今年度は昨年度の研究をさらに深めることを目指し、「友達の意見につなげて、自分の考えを発信すること」「自分の考えと友達の考えを比較しながら意見を深めるような話合いを行うこと」「問いに対する振り返りをもとに、正解にとらわれない多面的な振り返りを行うこと」などによって、児童の学ぶ意欲を高められると考え、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

問題解決に向けて意欲的に取り組むための効果的な指導のあり方を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

(1) 児童一人一人に問いをもたせる学習課題を設定し、話合い活動を充実させることによって児童が問題解決に向かうことができる。

(2) 「わかった！できた！役立った！」が実感できる振り返りを充実させることによって、児童の学ぶ意欲を高めることができる。

４　研究内容

(1)　学習課題の工夫（一人一人に問いをもたせる課題設定・提示の仕方）

(2)　課題解決に向けての話合いの工夫

(3)　振り返りを生かした学びの工夫（変容を見取り、次の学びに生かす）

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
６	２１	第１回授業研究 ５年２組 授業者 教諭　伊藤　遥佳	研究協議会（グループ・全体会）
１１	１	第２回授業研究 ４年２組 授業者 講師　平葭　寿樹	研究協議会（グループ・全体会）
１１	１４	小・中学校ジョイントスクール推進事業 （白銀南小学校で授業を実施）	分科会・全体会 （学習・生活・行事・特別支援）
１１	２８	総合教育センター　計画訪問	分科会（授業の教科ごと）
		第３回授業研究（要請訪問） １年２組 授業者 教諭　石木田　美保子	研究協議会（グループ・全体会）

(2)　一般研修

月	日	内容等	講師等
５	２４	Chromebook の活用方法	講　師：佐藤　元　(教務部視聴覚担当)
６	９	幼保小連携　１学年授業公開	授業者：１学年担任 特別支援学級担任
８	２３	ＡＥＤ救急法	講　師：小野　梨花子　（養護教諭）
９	２７	体育科における学習指導	講　師：大坂　幸　（教科部体育担当）
１	３１	特別支援教育・授業参観	授業者：特別支援学級担任
２	６	幼保小連携　１・２学年授業公開	授業者：低学年担任

６　研究の成果

(1)学習課題を明確に示したり、絵や図を用いて教材提示の仕方を工夫したりすることによって、本時に取り組む内容を焦点化するとともに児童の学習意欲を向上させることができた。

(2)絵や図を取り入れたワークシートを利用したり、異なる立場を示した児童同士で話し合わせたりすることによって、多様な意見を認め合う活発な話合いをさせることができた。

(3)児童の意見の変容を視覚化したり、振り返る事項を明確に示したりすることによって、次時の学びへとつながるような具体的な振り返りをさせることができた。

７　研究の課題

(1)立場表明をする際、「立場」の内容が曖昧であったために、混乱する児童や立場表明を正確に行えない児童がいた。また、「切実感」のある問いについては、研修を深める必要がある。

(2)話合いを行う中で、何を話し合うのか、何を書けばよいのかなどについて児童が混乱することがあった。話し合う内容やまとめ方について、より明確に示す必要がある

(3)学習の振り返りを行う際、「友達との関わり」と「学習の過程」の二点について振り返る児童が少ない。問題解決に至った過程を可視化するなど、さらに手立てを改善する必要がある。

（記入者　　佐藤　元）